



携帯発電機



取扱説明書

EF2000iS

ご使用前に、必ず取扱説明書・本体ラベルをお読みになり、内容を理解してからお使いください。

331282

7CF-28199-J0


おねがい


ヤマハ商品をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。
本書には、商品の安全性に関する情報と商品の正しい取り扱い方法および簡単な点検・調整について説明してあります。

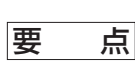
万一、取り扱いを誤ると重大な事故や故障の原因となります。
あなた自身の安全と環境や住民の方との調和のために、また商品の性能を十分に発揮させるために、商品の取り扱いを充分ご存じの方も、この商品独自の装備・取り扱いがありますので、ご使用前に必ず本書を最後までお読みください。なお、ご使用時には本書を携帯し、安全に商品をご使用くださいますようお願い申し上げます。

- 本書では、正しい取り扱いおよび点検・調整に関する必要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

 安全に係る注意情報を意味しています。

 **警告** 取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してあります。

 **注意** 取り扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。

 **要点** 正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

- 仕様変更などにより、本書のイラストや内容が一部実機と異なる場合がありますのでご了承ください。
- 保証書はよくお読みいただき、裏面のお買いあげ日、販売店の記入をご確認ください。
- 本書は大切に保管し、わからないことや不具合が生じたときにお読みください。なお、本機の転売や譲渡などをされる場合は必ず添付してください。

目次

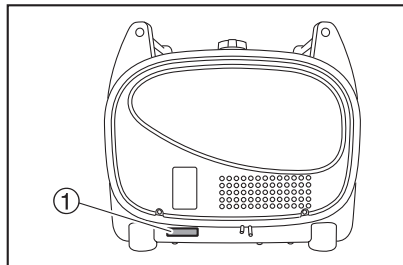
| | |
|---------------------------------------|--------------------------------------------|
| おねがい.....表紙裏 (表 2) | ● 直流電源の取り出しかた (12V バッテリ充電専用)..... P24 |
| 本体識別番号..... P1 | ● 交流電源の使用可能範囲..... P27 |
| お客様ご相談窓口のご案内..... P2 | ● 直流電源 (12V バッテリ充電 専用) の使用可能範囲..... P28 |
| 安全にお使いいただくために お守りください..... P3 | 点検..... P29 |
| ▲ 警告..... P3 | ● 始業点検..... P29 |
| ▲ 注意..... P4 | ● 定期点検..... P29 |
| 環境への配慮..... P4 | 始業点検..... P30 |
| 重要ラベル..... P5 | ● 燃料 (自動車用レギュラー ガソリン) の点検..... P30 |
| ▲ 警告ラベル..... P5 | ● エンジンオイルの点検..... P31 |
| ▲ 注意ラベル..... P6 | ● その他の点検..... P32 |
| その他ラベル..... P6 | 定期点検表..... P33 |
| 各部の名称..... P7 | 定期運転・定期交換..... P34 |
| 各部の取り扱い..... P9 | ● 定期運転..... P34 |
| ● エンジンスイッチ..... P9 | ● 定期交換..... P34 |
| ● オイル警告装置..... P9 | 定期点検・整備ご相談窓口のご案内... P35 |
| ● オイル警告ランプ (赤色)..... P10 | 点検・調整..... P36 |
| ● 燃料タンクキャップ..... P10 | ● スパークプラグの点検と清掃..... P36 |
| ● アース端子..... P11 | ● エンジンオイルの交換..... P38 |
| ● 出力ランプ (緑色)..... P11 | ● エアクリーナエレメントの清掃... P41 |
| ● 過負荷警告ランプ (赤色)..... P11 | ● マフラーワイヤネットの清掃..... P44 |
| ● 燃料コック..... P12 | ● 燃料タンクストレーナの清掃..... P46 |
| ● チョークノブ..... P12 | 故障診断..... P47 |
| ● 並列端子 (交流用)..... P13 | ● エンジンが始動しない..... P47 |
| ● 直流プロテクタ (過電流保護装置)..... P14 | ● 電気が出ない..... P47 |
| ● リコイルスタータハンドル..... P14 | 運搬..... P48 |
| ● 交流コンセント..... P15 | 保管・格納..... P50 |
| ● 直流コンセント..... P15 | ● 保管..... P50 |
| ● 周波数切替スイッチ..... P15 | ● 格納..... P53 |
| ● 携帯工具..... P16 | 仕様諸元..... P55 |
| はじめてお使いになる前に..... P17 | 結線図..... P57 |
| ● 燃料 (自動車用レギュラー ガソリン) の給油..... P17 | 索引..... P59 |
| ● エンジンオイルの給油..... P18 | |
| 正しい運転操作..... P20 | |
| ● エンジンの始動..... P20 | |
| ● エンジンの停止..... P22 | |
| ● 交流電源の取り出しかた..... P23 | |

本体識別番号

● 本体識別番号

商品名、本体識別番号（本体識別番号ラベル①）などは問い合わせや部品を注文するときのために記入しておいてください。

万一の盗難時のために商品名、本体識別番号は他の資料にも記録しておいてください。



商品名

本体識別番号

購入年月日 年 月 日

電話

本体識別番号

Serial NO.
7CF-
7CF-24163-01

お客様ご相談窓口のご案内

お買いあげいただきました商品についてのお問い合わせ・ご相談は下記の「お客様相談窓口」へお願いいたします。

ヤマハ発動機株式会社 お客様相談室

〒438-8501 静岡県磐田市新貝2500

 **0120-090-819**

オープン時間 月曜～金曜

(祝日、弊社所定の休日等を除く)

9:00～12:00 13:00～17:00

お問い合わせの際、お客様へ確実に迅速に対応させていただくため、あらかじめ下記の事項をご確認の上、ご相談ください。

- ① モデル名
- ② 製造番号（本体識別番号）
- ③ ご購入年月日
- ④ ご購入先

ヤマハ発電機をよりご理解いただくためにホームページもご参照ください。

ヤマハインターネットホームページ

<http://www.yamaha-motor.co.jp/generator/>

安全にお使いいただくためにお守りください

運転、保守、点検の前に必ずこの取扱説明書とその付属書類、および商品本体に貼付されているラベル全てを熟読し、正しくご使用ください。商品の知識、安全の情報そして注意事項の全てに習熟してからご使用ください。

警告 (行為を禁止する警告文)

- 警告ラベルを汚したり、はがしたりしないでください。
- 排気ガス中毒のおそれあり、排気ガスがこもる場所で使用しないでください。排気ガスは一酸化炭素など有害成分を含んでいますので、室内、車内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク、マンホールなど換気の悪い場所や建物や遮へい物で風通しの悪い場所などの排気ガスがこもる場所で使用しないでください。
- 商品の周囲を囲ったり、箱をかぶせて使用しないでください。
- 商品の上にものを乗せて使用しないでください。
- 火災のおそれあり、この発電機は車載用ではありません。車両に積載したまま使用しないでください。
- ヤケドや火災のおそれあり、使用中や使用直後はマフラー部が熱いので、マフラーやマフラー周辺のプロテクタに手足を直接接触したり、カバーを掛けたりしないでください。
- 火災のおそれあり、給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。
- 火災のおそれあり、商品の周囲や下に危険物（油脂類、セルロイド、火薬など）や燃えやすいもの（枯れ草、わらくず、紙くず、木くずなどの可燃物）を置かないでください。
- 感電、火災のおそれあり、電力会社の電気配線に接続しないでください。接続しますと電気器具や商品の故障、または火災や電気工事関係者の感電事故の原因となります。
- 感電のおそれあり、ぬれた手で商品进行操作したり、雨や雪など水のかかる場所では使用しないでください。
- 感電のおそれあり、コンセントにピンや針金などの金属物を差し込まないでください。
- 感電やけがのおそれあり、運転中は点検整備を行わないでください。
- 感電やけがのおそれあり、改造したり、部品を取り外したまま使用しないでください。

警告 (行為を指示する警告文)

- 商品を他人に貸すときは、必ず取扱説明書もいっしょに貸してください。
- 排気ガス中毒や火災のおそれあり、本機を建物や設備から 1 メートル以上離して使用してください。
- 火災のおそれあり、燃料の給油はエンジンを停止し、換気の良い場所で行ってください。

燃料のガソリンは、高い引火性と爆発性がありますので、取り扱いには充分注意してください。特にエンジン始動前には、ガソリンの漏れがないことを確認してください。

- 火災のおそれあり、給油時にこぼれた燃料は布きれなどできれいにふき取ってください。
- 燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は、石鹸と水で直ちに洗い、衣類は取り替えてください。
- 燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、または燃料が目に入ったりした場合には、直ちに医師の診察を受けてください。

▲ 注意 (行為を禁止する注意文)

- けがのおそれあり、傾斜させて使用しないでください。
- けがのおそれあり、運転中は移動させないでください。
- けがのおそれあり、商品の回転部に棒や針金を入れしないでください。
- 感電のおそれあり、運転中はスパークプラグにさわらないでください。
- 感電、けがのおそれあり、子供に使用させないでください。
- 感電、けがのおそれあり、エンジンを始動する前に電気器具を接続しないでください。
- 火災のおそれあり、定格出力を超えた過負荷で使用しないでください。
- 火災のおそれあり、エンジン部、マフラー部が十分に冷えるまで、発電機にカバーを掛けしないでください。

▲ 注意 (行為を指示する注意文)

- 火災のおそれあり、燃料の種類と規定容量を守って使用してください。
- 商品を自動車などで運搬する場合には、燃料を抜いて倒れないようにしっかり固定してください。
- 毎回使用前に行う始業点検や定期点検は必ず実施してください。
- 使用中に音、臭気、振動などの異状を感じたら、直ちにエンジンを停止してヤマハ発電機販売店またはサービス店の点検を受けてください。

環境への配慮

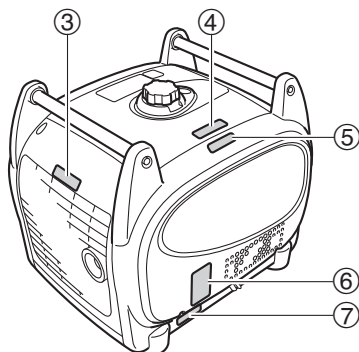
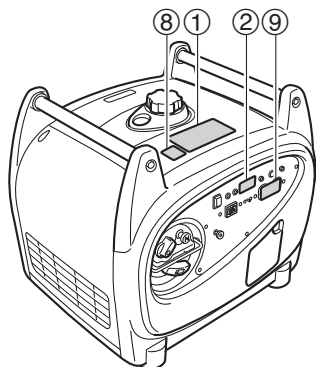
将来、廃棄される場合および廃油などの廃棄処理をされるときは、環境保護のため、お買いあげのヤマハ発電機販売店またはサービス店にご相談ください。

重要ラベル





商品本体に貼付されているラベル全てを熟読し、正しくご使用ください。

要 点

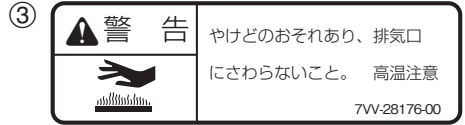
ラベルは常に手入れを行い、破れたりはがれたりした場合はヤマハ発電機販売店またはサービス店にご相談して、直ちに新しいものと交換してください。



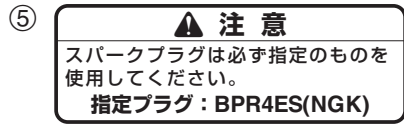
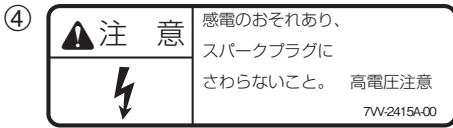
警告 ラベル

| ⚠ 警 告 | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  火気 厳禁 | 火災や爆発のおそれあり ・給油中はエンジン停止のこと。 ・ガソリン給油口に火気を近づけないこと。 ・こぼれたガソリンは完全に拭き取ること。 ・燃料は赤レベル(規定量)以上入れないこと。 ・可燃物のそばで使用しないこと。 ・建物・設備に排気を向けないこと。 |
|  | 感電や火災のおそれあり ・電力会社からの電気配線に接続しないこと。 感電のおそれあり ・雨や雪の中で使用しないこと。 ・コンセントに濡れた手でさわらないこと。 |
|  | 排気ガス中毒のおそれあり ・屋内など換気の悪い場所で使用しないこと。 ・人・建物・設備に排気を向けないこと。 |
|  | ⚠ 注 意 ご使用前に必ず取扱説明書をよく読んで安全にお使いください。 |

7CF-24162-00



注意 ラベル



その他ラベル

⑥ オイル



⑦ 本体識別番号ラベル (P1 参照)

⑧ 「LEMA」ラベル

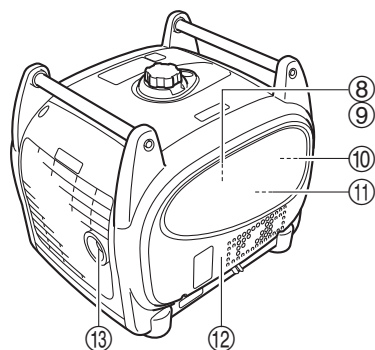
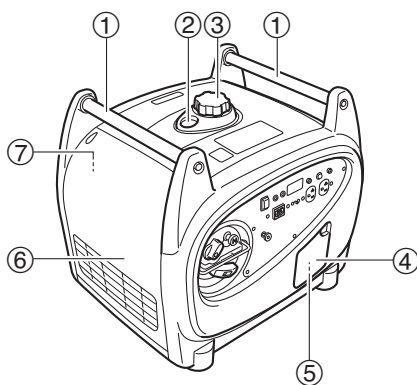
(「排出ガス」自主規制適合マーク)



⑨ 周波数切替スイッチ

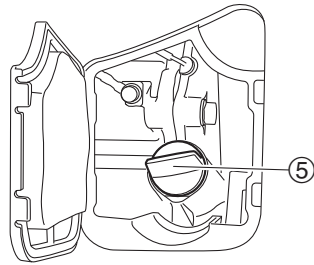
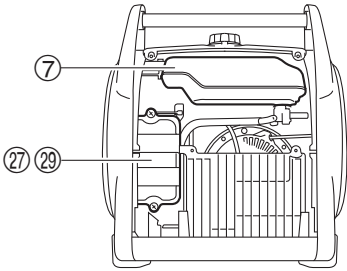
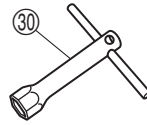
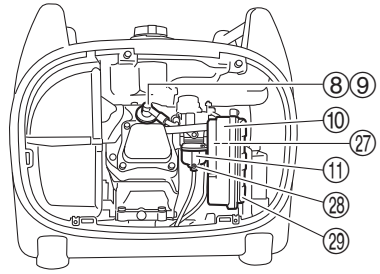
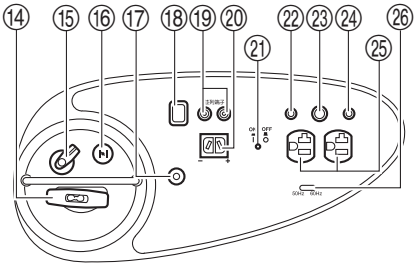
この発電機は 50Hz/60Hz 切替式です。
工場出荷時は 50Hz にセットされています。
60Hz の地域の方は、取扱説明書を参照
いただき、60Hz にセットしてください。

各部の名称



- ① ハンドル
- ② 燃料残量計
- ③ 燃料タンクキャップ
- ④ オイルプラグカバー
- ⑤ オイルプラグ (オイル注入口)
- ⑥ カバー (エアクリーナ関係)
- ⑦ 燃料タンク
- ⑧ スパークプラグキャップ
- ⑨ スパークプラグ
- ⑩ エアクリーナ
- ⑪ キャブレタ
- ⑫ カバー (キャブレタ関係)
- ⑬ マフラー
- ⑭ リコイルスタータハンドル
- ⑮ 燃料コック
- ⑯ チョークノブ
- ⑰ アース端子

- ⑱ エンジンスイッチ
- ⑲ 並列端子 (交流用)
- ⑳ 直流コンセント
- ㉑ 直流プロテクタ
- ㉒ オイル警告ランプ (赤色)
- ㉓ 出力ランプ (緑色)
- ㉔ 過負荷警告ランプ (赤色)
- ㉕ 交流コンセント
- ㉖ 周波数切替スイッチ
- ㉗ エアクリーナエレメント
- ㉘ ドレンスクリュ
- ㉙ エアクリーナカバー
- ㉚ スパークプラグレンチ



各部の取り扱い

● エンジンスイッチ

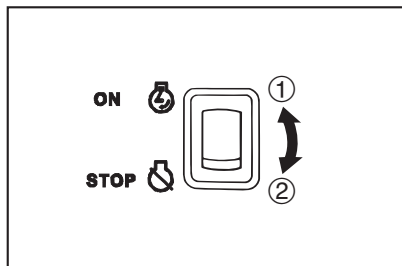
点火システムを制御し、エンジンの始動、停止を行います。

①ON —— エンジン運転時の位置です。

(運転)

②STOP —— エンジン停止および保管時の位置です。

(停止)



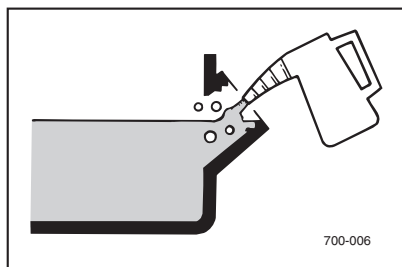
▲ 注意

発電機を使用しないときは、エンジンスイッチをSTOP (停止) の位置にしてください。

● オイル警告装置

エンジンオイル量が少なくなって潤滑不足になる前に、自動的にエンジンを停止させます。

エンジンオイル量が少ない状態でエンジンが停止したときは、リコイルスタータハンドルを引いてもエンジンは始動しません。エンジンオイル量を確認し、エンジンオイルを規定量（注入口の口元）まで給油します。



▲ 注意

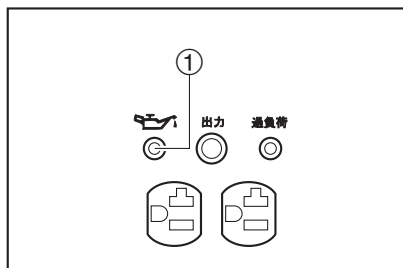
エンジンオイルを規定量以上に給油しないでください。エンジンオイルを入れ過ぎた状態で始動すると、エンジンが停止する、白煙が出るなど、不調の原因となります。

要 点

- エンジンオイルの給油のしかたは「● エンジンオイルの給油」(P18)も参照してください。
- エンジンオイルの給油は、発電機本体を水平状態にして行ってください。
- こぼれたエンジンオイルは必ずふき取ってください。

● オイル警告ランプ (赤色)

オイル警告ランプ (赤色) ① は運転中にエンジンオイル量が規定以下になると点灯し、自動的にエンジンを停止させます。また、始動時にエンジンオイル量が規定以下になっているとリコイルスタータハンドルを引いてもオイル警告ランプ (赤色) が点灯し、エンジンは始動しません。



要 点

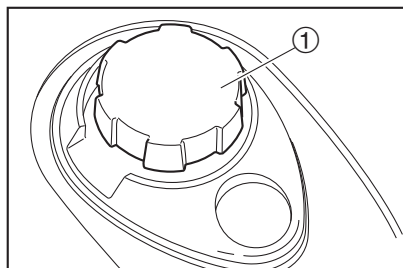
エンジンが停止したり始動しない場合は、リコイルスタータを引きながらオイル警告ランプを確認してください。オイル警告ランプが点灯するときにはエンジンオイルが不足していますので、オイル補充後、再度エンジンを始動してください。

● 燃料タンクキャップ

燃料タンクキャップ ① は反時計方向に回して取り外します。

警告

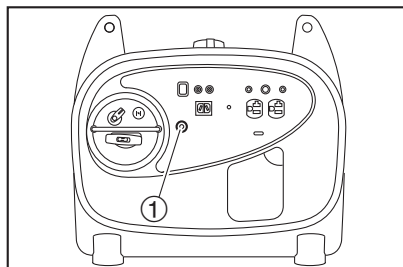
給油後は燃料タンクキャップを確実に締めてください。



各部の取り扱い（つづき）

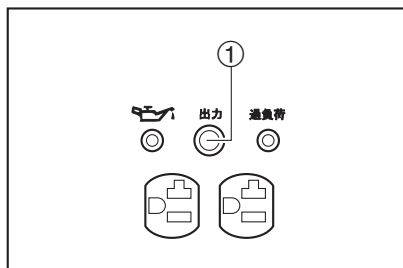
● アース端子

感電防止のアース線を取り付ける端子です。
アース端子①から地面にアースしてください。
使用する電気器具をアースしたときは、発電機も必ずアースしてください。



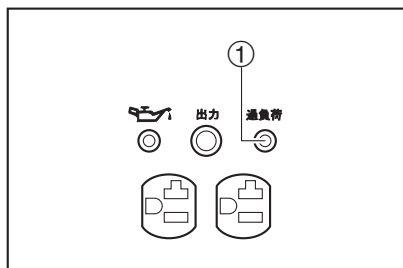
● 出力ランプ（緑色）

出力ランプ（緑色）①はエンジン始動後、発電が始まると点灯します。



● 過負荷警告ランプ（赤色）

過負荷警告ランプ（赤色）①は、接続された電気器具に定格出力を超える電気が供給されたとき、コントロールユニットがオーバーヒートしたとき、交流コンセントから定格電圧を超える電圧が出力されたときに点灯します。発電機は電気の供給を遮断しますが、エンジンは停止しません。



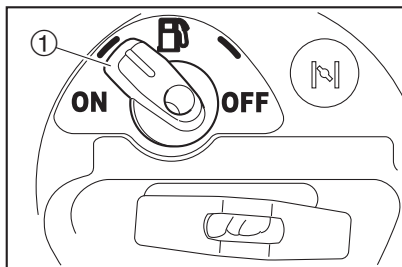
要 点

- 発電を再開する場合は一度エンジンを停止し、再度エンジンを始動してください。なお、過負荷警告ランプ（赤色）は自動的に消灯します。
- コンプレッサや水中ポンプなど、起動時に大電流が流れる電気器具を使用したとき、過負荷警告ランプが数秒間点灯する場合がありますが、これは故障ではありません。

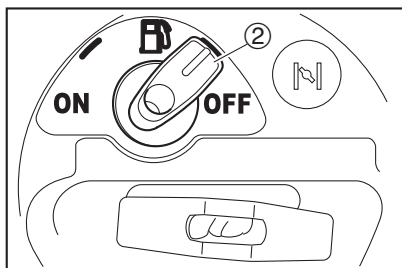
● 燃料コック

燃料コックは燃料の流れを制御します。

- ①ON —— 燃料は流れます。
(開) 始動および運転時のレバーの位置です。

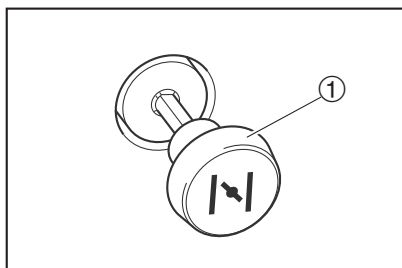


- ②OFF —— 燃料は流れません。
(閉) 停止および保管時のレバーの位置です。

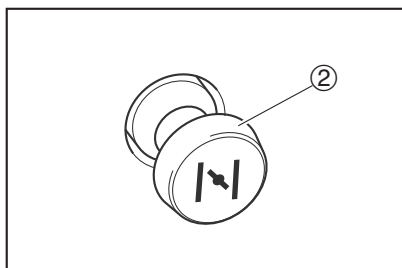


● チョークノブ

- ① 始動 —— エンジンが冷えている状態で始動させるときのチョークノブの位置です。



- ② 運転 —— エンジンを運転するときや、エンジンが暖まっている状態で始動させるときのチョークノブの位置です。



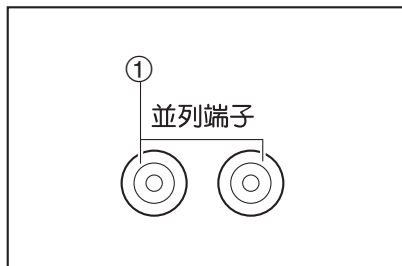
各部の取り扱い（つづき）

● 並列端子（交流用）

並列端子（交流用）①は、同一の2台の発電機（EF2000iS）を専用のコードを使用して並列に接続するための端子です。

他の発電機（EF2000iS以外）と接続することはできません。

同一の発電機を2台並列で運転した場合、電力3,800W、電流38Aが取り出せます。



要 点

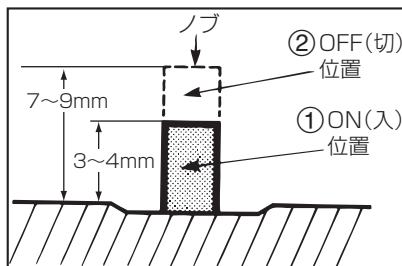
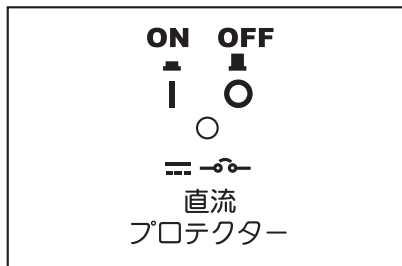
- ご使用には、別売りの「並列コードセット」が必要です。また、ご使用にあたっては「並列コードセット」に同梱の「並列コードセット取扱説明書」をよくお読みください。
- モーターなどの大きな起動電力を必要とする電気器具を使用すると、一時的（約5秒間）に過負荷警告ランプ（赤色）と出力ランプ（緑色）が同時に点灯しますが、異常ではありません。電気器具が起動すると過負荷警告ランプは消灯し、出力ランプは点灯し続けます。

● 直流プロテクタ（過電流保護装置）

- ①ON —— 直流が取り出せます。（通常は（入）この位置になっています。）
- ②OFF —— 直流が取り出せません。（切）

▲注意

- 直流プロテクタが ON（入）のときはノブを押し込まないでください。
- 直流プロテクタが OFF（切）になる場合は、バッテリー容量・放電状態を発電機の指定バッテリー容量以内に減らしてください。それでも OFF（切）になる場合は、ヤマハ発電機販売店またはサービス店に相談してください。

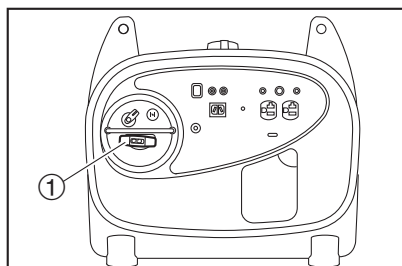


要 点

12V バッテリー充電中に定格以上の電流が流れると自動的に OFF（切）になります。再度使用する場合はノブを押し込んで ON（入）にしてください。

● リコイルスタータハンドル

リコイルスタータハンドル①は、エンジンを始動させるときに使用します。



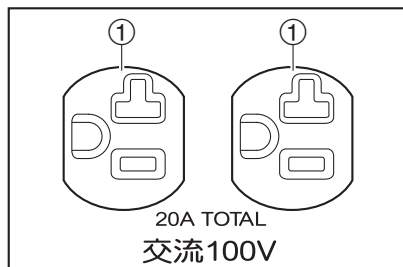
各部の取り扱い（つづき）

● 交流コンセント

交流（AC）の単相 100V,20A を取り出すことができます。

取り出しかたは「● 交流電源の取り出しかた」（P23）を参照してください。

① 交流コンセント

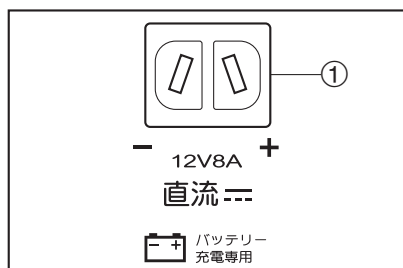


● 直流コンセント

直流（DC）の 12V,8A を取り出すことができます。

取り出しかたは「● 直流電源の取り出しかた（12Vバッテリー充電専用）」（P24）を参照してください。

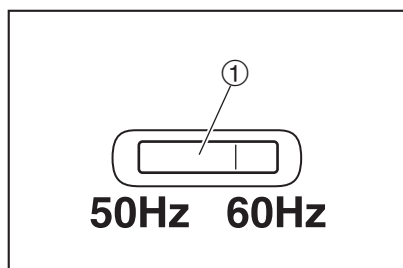
① 直流コンセント



● 周波数切替スイッチ

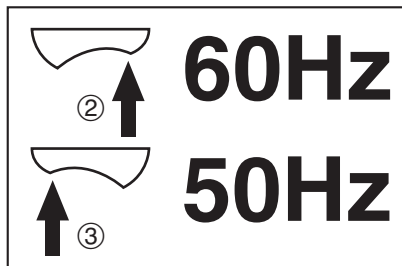
周波数切替スイッチ ① は、利用する器具の周波数に合わせて周波数を 50Hz か 60Hz のいずれかに切り替えるスイッチです。

60Hz 仕様の電気器具を接続するときは、周波数切替スイッチの60Hz側②を押してください。また、50Hz 仕様の電気器具を接続するときは、周波数切替スイッチの50Hz側③を押してください。



要 点

- ご購入時には、周波数切替スイッチは 50Hz にセットされています。
- 周波数の切り替えは、エンジンの停止中に行ってください。
- 電気器具の周波数が不明の場合は、電気器具会社にご相談ください。

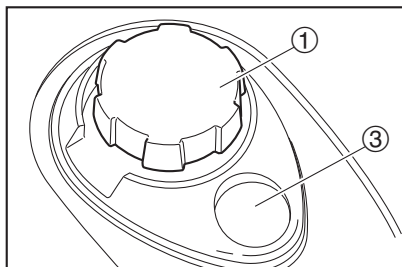


● 携帯工具

発電機に携帯工具が同梱されています。点検・調整の際にご使用ください。

はじめてお使いになる前に

- **燃料（自動車用レギュラーガソリン）の給油**
燃料タンクキャップ①を外し、燃料（自動車用レギュラーガソリン）を赤レベル②まで給油します。
燃料タンク内の燃料の残量は、燃料残量計③により確認できます。

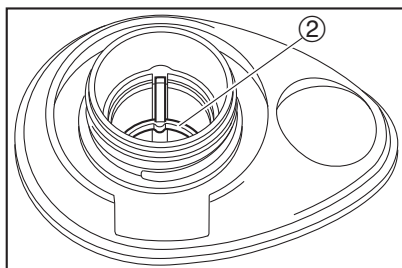


使用燃料：

無鉛ガソリン（自動車用レギュラーガソリン）

燃料タンク容量：

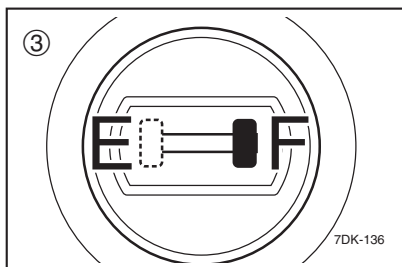
6.0L（赤レベルまで）



▲警告

燃料のガソリンは高い引火性と爆発力があるので、次の事項を必ず守ってください。

- 給油は、換気の良い場所でエンジンを停止してから行ってください。
- 給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。また、給油ノズルを給油口に当てるなどして静電気が発生しないように注意して行ってください。
- 燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、または燃料が目に入ったりした場合は、直ちに医師の診断を受けてください。また燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は石鹸と水で直ちに洗い、衣類は取り替えてください。
- 燃料タンクキャップは確実に締めてください。



▲注意

- 燃料の給油時、燃料タンク内に水・雪・氷・ゴミが入らないように注意してください。また、こぼれたときは、直ちに布きれなどで完全にふき取ってください。
- 燃料は規定量以上（ストレナーの赤レベル以上）給油しないでください。

要 点

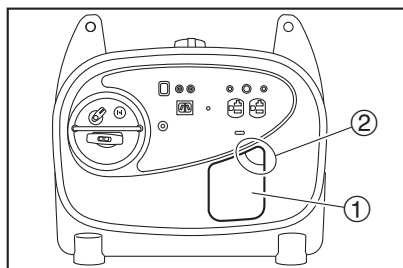
- 燃料はゆっくりと給油してください。
- 燃料は全部なくなる前に、できるだけ早めに補給してください。

● エンジンオイルの給油

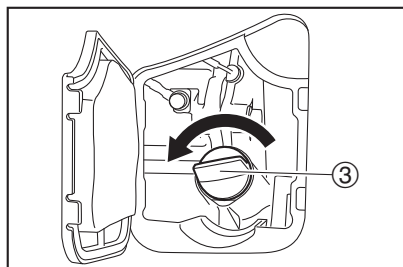
▲ 注 意

- 工場出荷時にはエンジンオイルが給油されていませんので、購入後、最初に使用するときにはエンジンオイルを規定量給油してください。
- エンジンオイルを規定量以上に給油しないでください。エンジンオイルを入れ過ぎた状態で始動すると、エンジンが停止する、白煙が出るなど、不調の原因となります。

1. オイルプラグカバー ① の ② 部に指を差し込んで、オイルプラグカバーを手前に開きます。



2. オイルプラグ ③ を取り外します。



はじめてお使いになる前に（つづき）

3. エンジンオイルを規定量（注入口の口元まで）給油します。

推奨オイル：

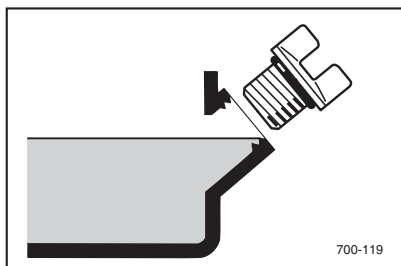
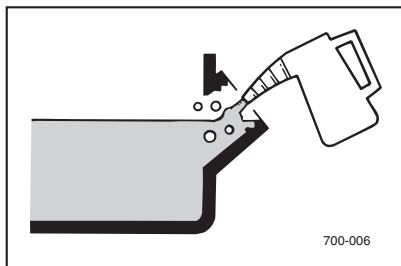
ヤマルーブスタンダードプラスまたは
4 ストロークガソリンエンジンオイル
SAE 10W-30 もしくは 10W-40

グレード：

API 分類 SE 級以上

エンジンオイル規定量：

0.6L

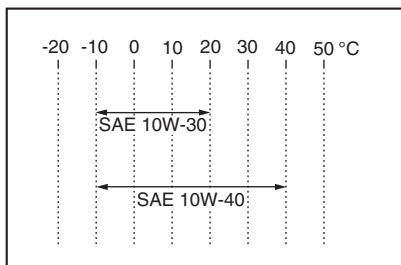


要 点

- エンジンオイルを交換するときは、「● エンジンオイルの交換」(P38) を参照してください。
- エンジンオイルの給油は、発電機本体を水平状態にして行ってください。
- こぼれたエンジンオイルは必ずふき取ってください。

4. オイルプラグを取り付け、確実に締め付けます。

5. オイルプラグカバーを閉じます。



正しい運転操作

● エンジンの始動

▲ 警告

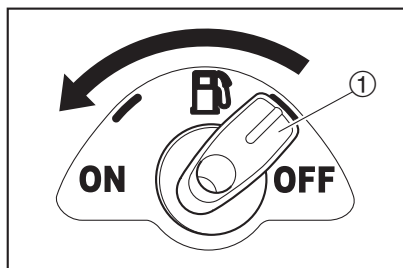
換気や風通しが不十分で排気ガスがこもる場所ではエンジンを始動しないでください。

▲ 注意

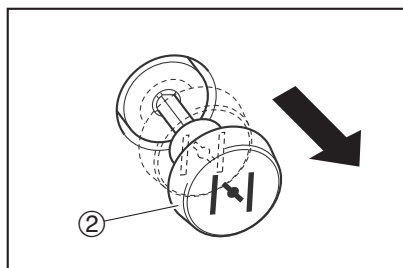
エンジンを始動する前に電気器具を接続しないでください。

1. 燃料（自動車用レギュラーガソリン）の量を点検します。

2. 燃料コック①をON（開）にします。

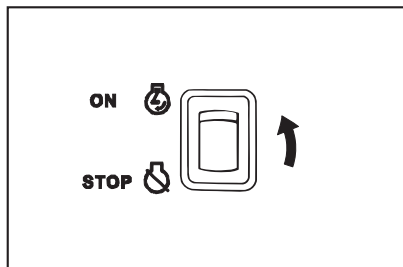


3. チョークノブを引いて、始動の位置②にします。エンジンが暖まっているときは、チョークノブを始動の位置②にする必要はありません。

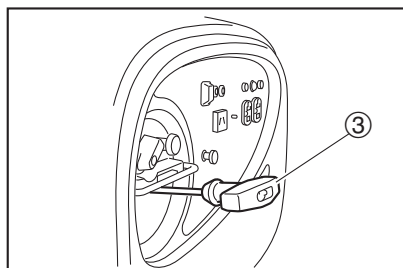


正しい運転操作（つづき）

4. エンジンスイッチを ON（運転）の位置にします。



5. リコイルスタータハンドル③を軽く引き出し、リコイルスタータハンドルが重くなった状態から勢いよく引いてエンジンを始動します。



▲注意

- リコイルスタータハンドルを引くときは、発電機が倒れないように手でハンドルを押さえてください。
- リコイルスタータハンドルを戻すときは、ゆっくりと戻してください。

要 点

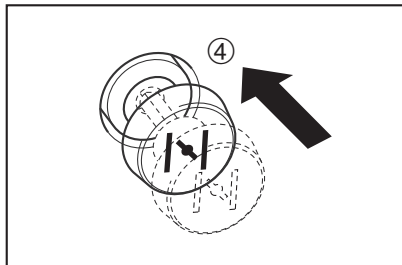
リコイルスタータハンドルを数回引いてエンジンが始動しないときは、チョークノブを元に戻してリコイルスタータハンドルを引いてください。

6. エンジン回転数が安定したら、チョークノブを
運転の位置 ④ にします。

7. しばらく暖機運転します。

要 点

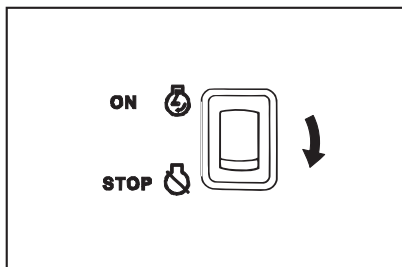
気温が 0℃ (± 3℃) 以下の場合、自動的にエンジン回転数が約 3,200r/min に上昇し、約 3 分間暖機運転します。その後、自動的に低速運転に切り替わります。



● エンジンの停止

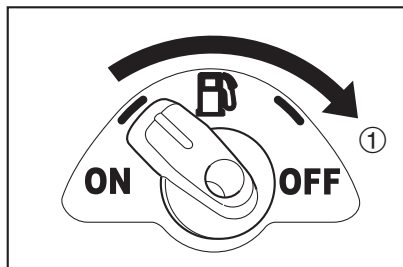
1. 電気器具のスイッチを OFF (切) にします。
2. 電気器具のプラグをコンセントから抜きます。

3. エンジンスイッチを STOP (停止) の位置に
してエンジンを停止します。



正しい運転操作（つづき）

4. 燃料コックを OFF（閉）① にします。

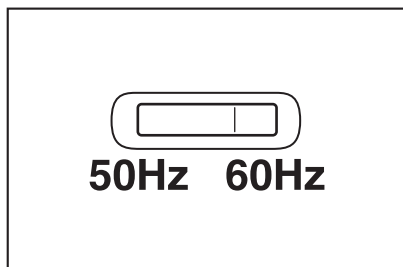


● 交流電源の取り出しかた

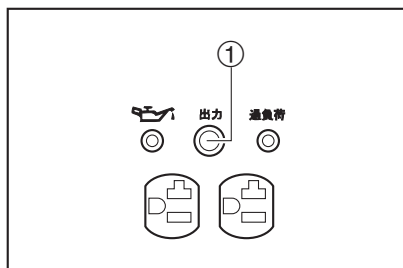
▲ 注 意

- 発電機は接続された電気器具の負荷の変化に合わせて電圧が変化しますので、電圧変化に敏感な電気器具は使用しないでください。
- 接続の可否が不明確な場合は電気器具会社にご相談ください。
- コンセントにほこり、汚れ、水などが付いている場合は、除去してから使用してください。

1. 周波数切替スイッチを使用する電気器具の周波数に合わせます。
2. エンジンを始動します。



3. 出力ランプ①が点灯していることを確認します。

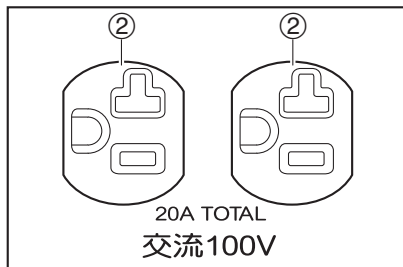


4. 電気器具のプラグを交流コンセント②に差し込みます。

要 点

電気器具のスイッチが OFF (切) になっていることを必ず確認してから差し込んでください。

交流コンセント②には単相 100V で合計消費電流 20A 以下の電気器具のプラグを差し込みます。

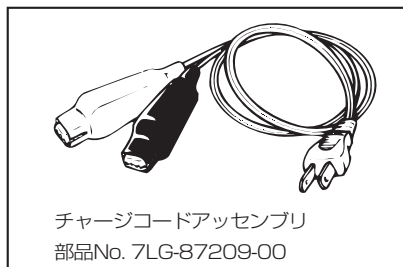


- 直流電源の取り出しかた (12V バッテリ充電専用)

▲ 注 意

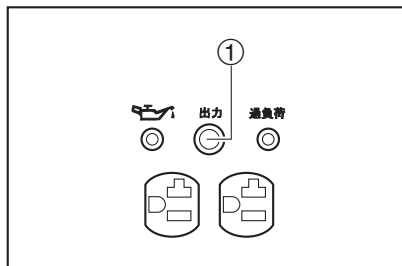
- 直流 (DC) と交流 (AC) を同時に取り出さないでください。
- 充電時間はバッテリー液の比重によって異なります。

チャージコードアセンブリは有料で販売しています。

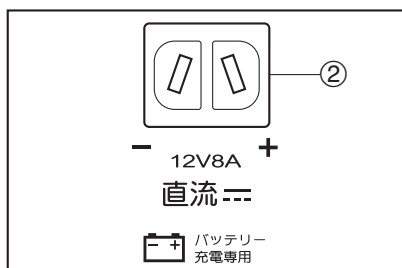


正しい運転操作（つづき）

1. エンジンを始動します。
2. 出力ランプ①が点灯していることを確認します。



3. チャージコードアセンブリのプラグを直流コンセント②に差し込みます。



4. チャージコードアセンブリの赤色端子をバッテリーの⊕端子に接続します。
5. チャージコードアセンブリの黒色端子をバッテリーの⊖端子に接続します。

▲ 注意

- 満充電になるための充電時間はバッテリーの種類、放電状態（比重）によって異なります。
- 詳細は充電するバッテリーの説明書を熟読してください。
- チャージコードアセンブリの取り外しは、エンジン停止後に行ってください。

▲ 警 告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、けがをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- 火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。
- 補充電は風通しの良いところで行ってください。
- ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。
- 落下などの強い衝撃を加えないでください。
- バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。
- 子供の手の届くところに置かないでください。

応急手当

- 万一、バッテリー液が皮膚、衣服などに付いたときは、すぐに多量の水で洗い流してください。
 - 目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。
-

正しい運転操作（つづき）

● 交流電源の使用可能範囲

交流電源は電気器具ごとに、おおむね下表の取り出し可能範囲まで使用できます。使用する電気器具の消費電力（W）をお確かめの上、ご使用ください。

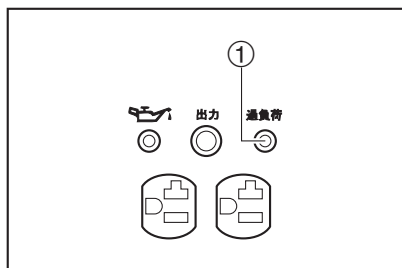
| 電気器具 | 取り出し可能範囲 | | 備考 |
|-----------------------|------------------|--|-----------------|
| | EF2000iS | | |
| | 50Hz / 60Hz | | |
| 照明・電熱器・ラジオ・テレビ・ステレオなど | 100V、2,000W まで | | 力率 = 1 |
| 電動工具類 | 100V、1,600W 程度まで | | 力率 = 0.8 ~ 0.95 |
| 汎用モーター類 | 100V、400W 程度まで | | 力率 = 0.4 ~ 0.75 |

▲ 注意

- 電気器具の合計負荷が発電機の取り出し可能範囲を超えた過負荷で使用しないでください。発電機損傷の原因となります。
- 精密機器・電子制御機器・パソコン・電子計算機・マイコン付機器および充電器類への使用は、発電機のエンジンノイズ（原動機雑音）の影響を受けない距離を確保してください。また、近くにある他の電気製品がエンジンノイズ（原動機雑音）に影響されないことを確認してください。
- 医療機器への使用は、事前に医療機器会社・医師・病院などに確認の上ご使用ください。
- 電気工具類・汎用モーター類の一部には、取り出し可能範囲が上記表内の数値内でも起動電流が大きく使用できないことがあります。この場合は電気器具会社にご相談ください。

要 点

- 取り出し可能範囲を超えた場合、または電気器具に異常があった場合は、電気の供給が遮断されます。
- 過負荷警告ランプ（赤色）①は、接続された電気器具に定格出力を超える電気が供給されたとき、コントロールユニットがオーバーヒートしたとき、交流コンセントから定格電圧を超える電圧が出力されたときに点灯します。



-
- コンプレッサや水中ポンプなど、起動時に大電流が流れる電気器具を使用したとき、過負荷警告ランプが数秒間点灯する場合がありますが、これは故障ではありません。
-

- **直流電源（12V バッテリー充電専用）の使用可能範囲**

直流電源は 40AH、1/2（ハーフ）放電状態のバッテリーを充電できるように作られていますので、これよりも容量の小さいバッテリーを充電してください。

12V バッテリー

バッテリーの補充電は、バッテリーの放電状態によって充電時間が異なります。バッテリーの比重が 1.26 ~ 1.28 になると充電完了となりますので、1 時間おきに比重をチェックしてください。40AH のバッテリーの場合、1/2（ハーフ）放電状態から約 5 時間でほぼ良好な状態となります。なお、バッテリーの充電は、必ずバッテリーの液量を確認してから行ってください。

▲ 注意

- バッテリー充電中にバッテリーから電気を取ったり、バッテリー充電中に車のスタータモーターを回すなどしないでください。大電流が流れ、発電機ジェネレータ部分のコイル焼けの原因となります。
 - 密閉式バッテリーには専用の充電器が必要です。密閉式バッテリーは接続しないでください。
-

点検

お客様の安全と、発電機の故障と事故を未然に防ぐために実施してください。

⚠ 警告

- エンジン運転中および停止直後は、エンジン本体、マフラー周辺のプロテクタやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。手足で直接触れないでください。
ヤケドに注意してください。
 - 排気ガスは、一酸化炭素など有害な成分を含んでいます。換気の悪い場所や、風通しの悪い場所でエンジンを始動しての点検はしないでください。
 - 重大な事故・故障の原因になりますので、始業点検・定期点検を必ず実施してください。
 - 異状が認められた場合は、ご使用のかたご自身、もしくはヤマハ発電機販売店またはサービス店で必ず整備を行ってください。
-

● 始業点検

お客様が発電機をご使用する前に点検を行ってください。

点検箇所に異状がある場合は、ヤマハ発電機販売店またはサービス店で点検・整備を受けてください。

● 定期点検

お客様のお申し付けにより、ヤマハ発電機販売店またはサービス店が実施します。お客様の責任で必ず点検を受けてください。

始業点検

● 燃料（自動車用レギュラーガソリン）の点検

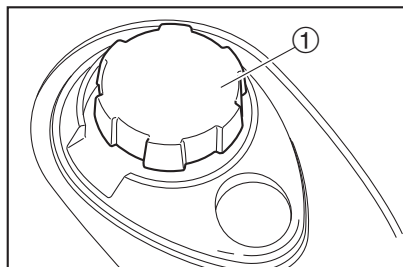
燃料タンクキャップ①を外して、燃料（自動車用レギュラーガソリン）の残量を点検します。

使用燃料：

無鉛ガソリン（自動車用レギュラーガソリン）

燃料タンク容量：

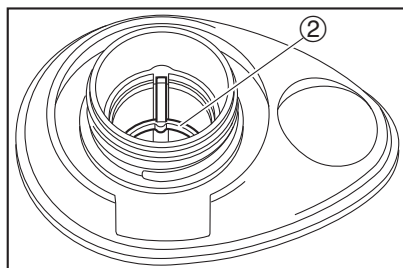
6.0L（赤レベル②まで）



▲ 警告

燃料のガソリンは高い引火性と爆発力があるので、次の事項を必ず守ってください。

- 給油は、換気の良い場所でエンジンを停止してから行ってください。
- 給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。また、給油ノズルを給油口に当てるなどして静電気が発生しないように注意して行ってください。
- 燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、または燃料が目に入ったりした場合は、直ちに医師の診断を受けてください。また燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は石鹼と水で直ちに洗い、衣類は取り替えてください。
- 燃料タンクキャップは確実に締めてください。



▲ 注意

- 燃料の給油時、燃料タンク内に水・雪・氷・ゴミが入らないように注意してください。また、こぼれたときは、直ちに布きれなどで完全にふき取ってください。
- 燃料は規定量以上（ストレーナの赤レベル以上）給油しないでください。

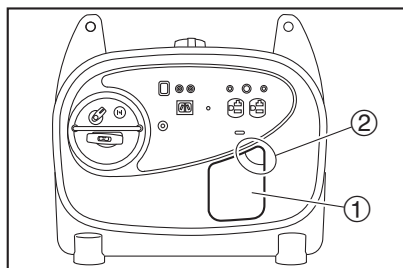
始業点検 (つづき)

要 点

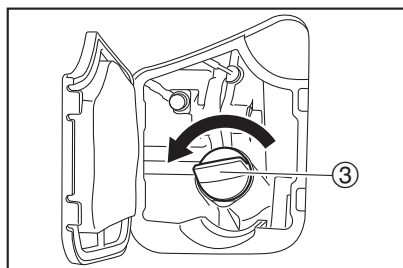
- 燃料はゆっくりと給油してください。
- 燃料は全部なくなる前に、できるだけ早めに補給してください。

● エンジンオイルの点検

1. オイルプラグカバー ① の ② 部に指を差し込んで、オイルプラグカバーを手前に開きます。



2. オイルプラグ ③ を取り外し、エンジンオイルがオイル基準面 ④ まであるか点検します。
エンジンオイルが基準面より少ない場合は、エンジンオイルを注入口の口元まで給油します。

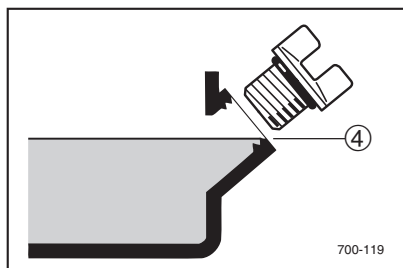


▲ 注 意

エンジンオイルを基準面以上に給油しないでください。エンジンオイルを入れ過ぎた状態で始動すると、エンジンが停止する、白煙が出るなど、不調の原因となります。

要 点

- エンジンオイルの給油は、発電機本体を水平状態にして行ってください。
- こぼれたエンジンオイルは必ずふき取ってください。
- エンジンオイルを規定量入れないとエンジンは始動しません。



-
3. オイルプラグを取り付け、確実に締め付けます。
 4. オイルプラグカバーを閉じます。

- **その他の点検**

「定期点検表」(P33) を参照してください。

定期点検表

| 対象部品 | 点検項目 | 始業 点検 | 6ヶ月毎または 100時間運転毎 | 12ヶ月毎または 300時間運転毎 |
|------------------|----------|----------|---------------------|----------------------|
| スパークプラグ | 点検、清掃 | | ○ | |
| エンジンオイル | オイル量の点検 | ○ | | |
| | 交換 | | ○ (*1) | |
| 燃料 | 量、漏れ | ○ | | |
| フューエルパイプ | 亀裂、損傷の確認 | ○ | | |
| エアクリーナ | 点検、清掃 | | ○ (*2) | |
| マフラーワイヤネット | 清掃、損傷の確認 | | ○ | |
| スパークアレスター | 清掃、損傷の確認 | | ○ | |
| 燃料タンクストレーナ | 清掃 | | | ○ |
| フューエルストレーナ | 清掃 | | | ○ |
| ブリーザパイプ | 亀裂、損傷の確認 | | | ○ |
| シリンダーヘッド部 | カーボンの除去 | | | ★ |
| バルブクリアランス | 点検 | | | ★ |
| エンジン回転 | 調整 | | | ★ |
| リコイルスタータ | 損傷の確認 | | | ★ |
| 本体各部 | 各部のゆるみ確認 | | | ★ |
| 前日の作業で異状が認められた箇所 | | ○ | | |

*1 …… 初回は 1 ヶ月目または 20 時間運転時に実施してください。

*2 …… ほこりの多い場所で作業した場合は、定期点検時期より早めに点検を行ってください。

★ …… この項目は整備に関する専門知識、工具、技術を必要としますので、ヤマハ発動機販売店またはサービス店へお申し付けください。

定期運転・定期交換

格納中であっても発電機を緊急で使うことが予測される場合は、ここに示す定期運転、定期交換を行って緊急時に備えてください。

● 定期運転

1 ヶ月に 1 度定期的に発電機を運転（約 10 分）し、電気器具を接続して運転状態を点検してください。

● 定期交換

燃料（自動車用レギュラーガソリン）を満タンの状態で保管する場合は、燃料の変質による始動不良を防止するため、3 ヶ月に 1 回は燃料タンク内の燃料を交換してください。

▲ 警 告

- 本書での指示なき作業などを行うときにも、必ずエンジンを止めてください。
 - お客様自身が整備作業についてあまり熟知されていない場合は、ヤマハ発電機販売店またはサービス店へ作業を依頼してください。
-

交換部品は、必ず純正部品、または指定されたものを使ってください。

定期点検・整備ご相談窓口のご案内

ヤマハ商品の定期点検および整備に関しましては、別紙、「ヤマハ発電機サービス店のご案内」に記載されたヤマハ発電機販売店またはサービス店にご遠慮なくご用命ください。

【ご注意】

1. 整備はヤマハ発電機販売店またはサービス店へのお持ち込みを原則とします。
2. 現地整備の場合には別途出張料金を申し受けます。
3. 土曜、日曜、祝日、年末年始、その他夏期等休業させていただく場合があります。
4. 区画整理、電話局の新增設などにより、住所、電話番号が変更になることがありますのであらかじめご了承ください。

点検・調整

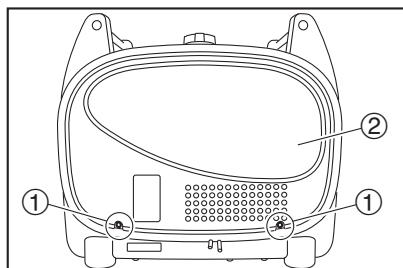
● スパークプラグの点検と清掃

スパークプラグは、点検が簡単な重要部品です。
スパークプラグは徐々に劣化しますので、定期的
に外して点検を行う必要があります。

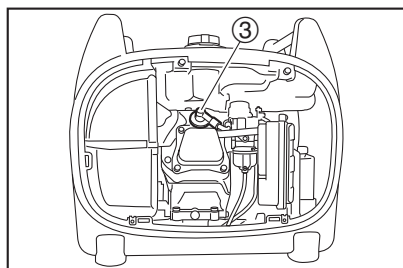
⚠ 警告

エンジン停止直後は、スパークプラグやエンジン
本体が熱くなっていますので、ヤケドに注意して
ください。

1. エンジンスイッチを STOP（停止）の位置に
してエンジンを停止します。
2. スクリュー①を取り外し、カバー②を取り外し
ます。



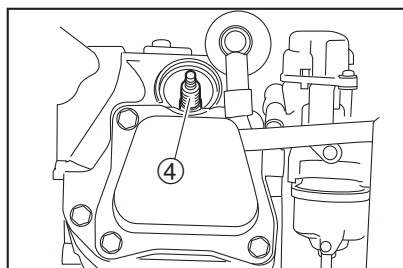
3. スパークプラグキャップ③を取り外します。



4. スパークプラグレンチを使って、スパークプラ
グ④を取り外します。

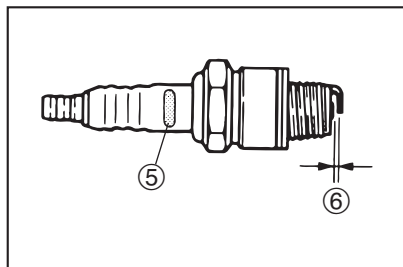
⚠ 警告

スパークプラグの脱着の際は、碍子を損傷させな
いように注意してください。碍子が損傷すると、
電気が漏れて火災などを誘発するおそれがありま
す。



点検・調整（つづき）

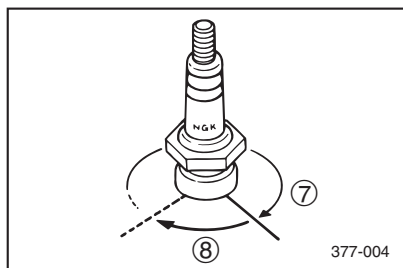
5. スパークプラグの焼け具合を点検します。
通常はキツネ色に焼けますが、黒くくすぶって
いたり白く焼けていたときはエアクリーナを点
検します。
6. 電極付近の汚れ（カーボン）を落とします。
7. スパークプラグ認識番号⑤とスパークプラグ
ギャップ⑥を点検します。



スパークプラグ認識番号：
NGK BPR4ES
スパークプラグギャップ：
0.7～0.8 mm

8. スパークプラグを取り付け、規定のトルクで締
め付けます。

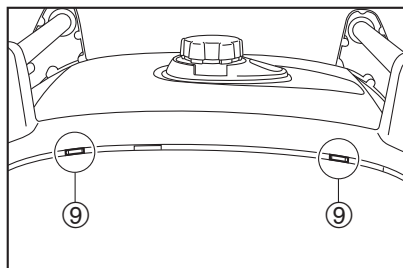
スパークプラグ
規定トルク：
20Nm (2.0kgf・m)



要 点

スパークプラグを取り付ける際にトルクレンチが
準備できないときは、指でいっぱい締め込んだ
後⑦、プラグレンチを使って1/4～1/2回転⑧
更に締め込んでください。

できるだけ早い時期に、トルクレンチを使って正
規のトルクで締めてください。



9. スパークプラグキャップを取り付けます。
10. カバー上部の突起を本体の溝⑨にはめ込んで
取り付けて、スクリューを締め付けます。

● エンジンオイルの交換

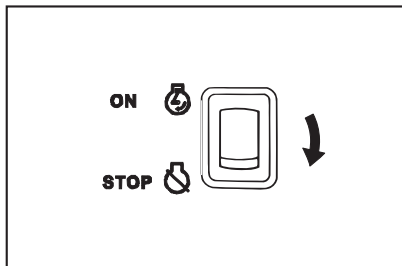
警告

油脂類の廃液は法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられていますので、ヤマハ発電機販売店またはサービス店へご相談ください。

1. エンジンを始動し、2～3分暖機運転します。
2. エンジンスイッチをSTOP（停止）の位置にしてエンジンを停止します。

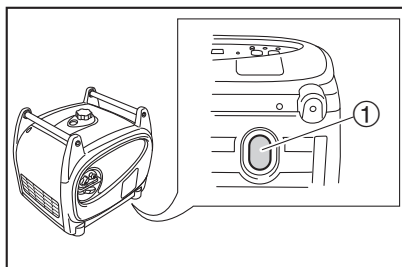
警告

エンジン停止直後はエンジンオイルが熱くなっていますので、すぐに排出しないでください。



3. 排出するエンジンオイルを受け取る容器を用意します。

4. 発電機本体を傾けて、底面に取り付けられているラバーキャップ①を取り外します。

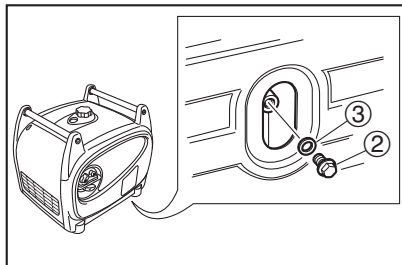


点検・調整 (つづき)

5. エンジンオイルドレンボルト②、ガスケット③を取り外してエンジンオイルを抜きます。

要 点

初回は 20 時間目、その後は 100 時間毎に交換してください。

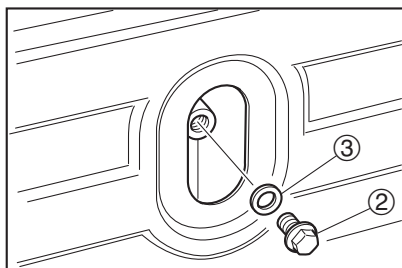


6. 新しいガスケット③とエンジンオイルドレンボルト②を取り付け、エンジンオイルドレンボルトを規定のトルクで締め付けます。

エンジンオイルドレンボルト

規定トルク：

17 Nm (1.7 kgf·m)

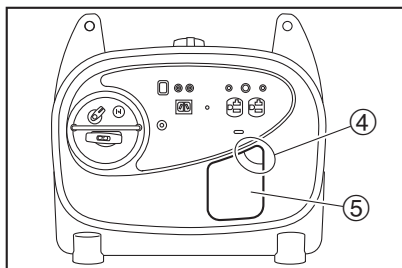


7. 底面にラバーキャップを取り付けます。

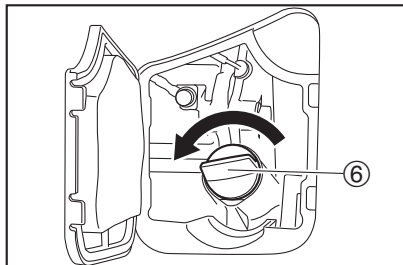
▲ 注 意

発電機使用中の振動で外れないように確実に取り付けてください。

8. ④部に指を差し込んで、オイルプラグカバー⑤を手前に開きます。



9. オイルプラグ⑥を取り外します。



10. 新しいエンジンオイルを規定量（注入口の口元まで）給油します。

推奨オイル：

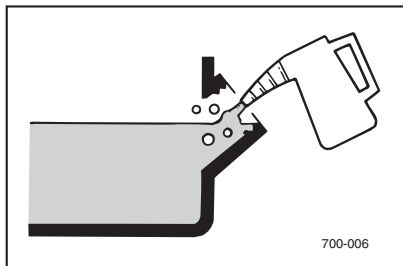
ヤマルーブスタンダードプラスまたは
4ストロークガソリンエンジンオイル
SAE 10W-30 もしくは 10W-40

グレード：

API 分類 SE 級以上

エンジンオイル規定量：

0.6L



▲ 注 意

エンジンオイルを規定量以上に給油しないでください。エンジンオイルを入れ過ぎた状態で始動すると、エンジンが停止する、白煙が出るなど、不調の原因となります。

要 点

- エンジンオイルの給油は、発電機本体を水平状態にして行ってください。
- こぼれたエンジンオイルは必ずふき取ってください。

11. オイルプラグを取り付け、確実に締め付けます。

12. オイルプラグカバーを閉じます。

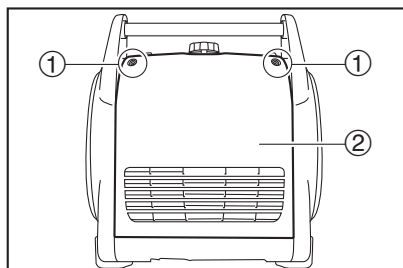
点検・調整 (つづき)

● エアクリーナエレメントの清掃

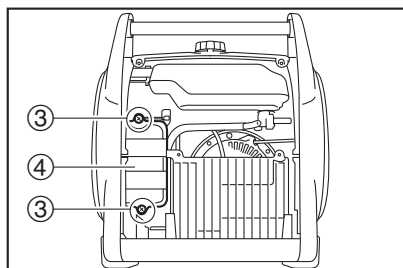
要 点

ほこりの多い場所で使用した場合は、定期点検時期より早めに清掃してください。

1. エンジンスイッチを STOP (停止) の位置にしてエンジンを停止します。
2. スクリュ①を取り外し、カバー②を取り外します。



3. スクリュ③を取り外し、エアクリーナカバー④を取り外します。

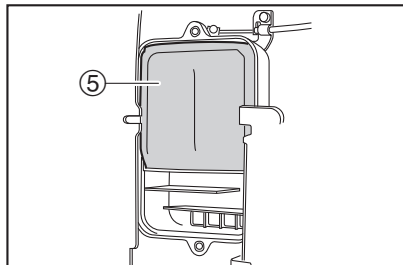


4. エLEMENT ⑤ をエアクリーナ本体から取り外します。

5. エLEMENTをきれいな白灯油で洗淨します。

▲ 警告

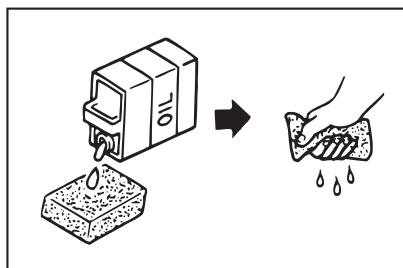
- タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。
- 油脂類の廃液は法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられていますので、ヤマハ発電機販売店またはサービス店へご相談ください。



6. エLEMENTをエンジンオイルなどにひたし、その後余分なオイルを取り除きます。

▲ 注意

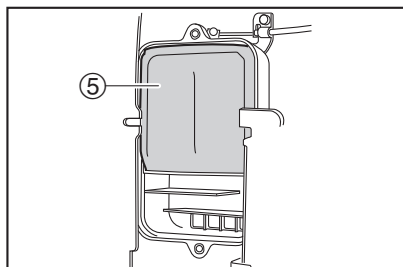
ELEMENTは絶対にきつく絞らないでください。破れてエンジンが不調になることがあります。



7. ELEMENT ⑤ をエアクリーナ本体にはめ込みます。

▲ 注意

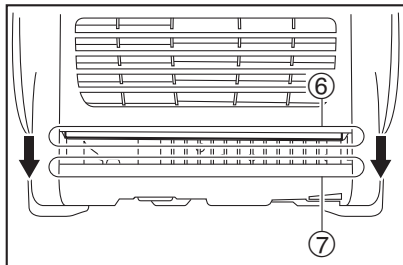
ELEMENTを取り付けていない状態ではエンジンを絶対に始動させないでください。ピストンやシリンダーの摩耗の原因になります。



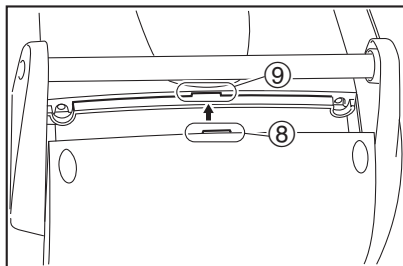
8. エアクリーナカバーを元の位置に戻し、スクリュを締め付けます。

点検・調整 (つづき)

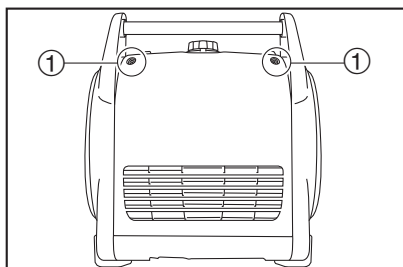
9. カバー下部の突起⑥を本体の溝⑦にはめ込みます。



10. カバー上部の突起⑧を本体の溝⑨にはめ込みます。



11. スクリュ①を締め付けます。

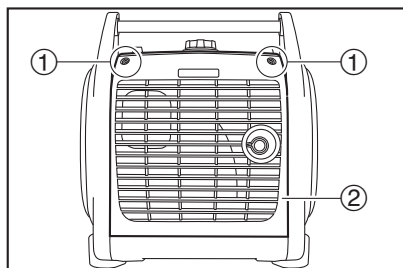


● マフラーワイヤネットの清掃

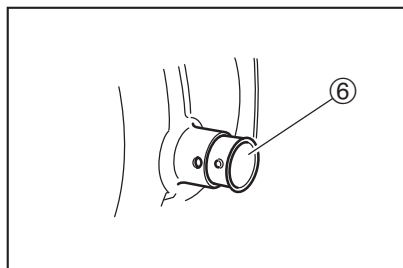
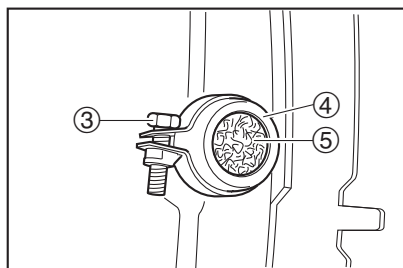
警告

エンジン停止直後はエンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっていますので、ヤケドに注意してください。点検や整備は、十分にエンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが冷えてから行ってください。

1. エンジンスイッチをSTOP（停止）の位置にしてエンジンを停止します。
2. スクリュー①を取り外し、カバー②を取り外します。

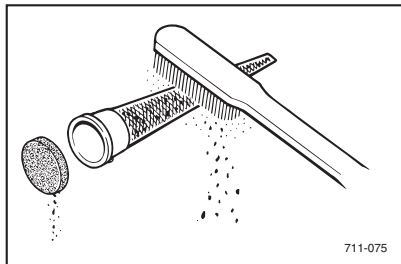


3. マフラーキャップボルト③をゆるめて、マフラーキャップ④、マフラーワイヤネット⑤、スパークアレスター⑥を取り外します。



点検・調整 (つづき)

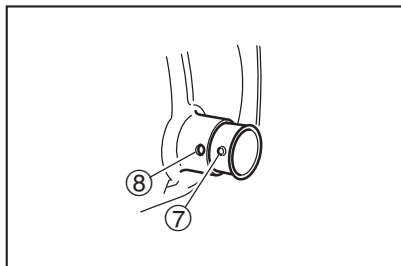
4. ワイヤブラシを使用して、マフラーワイヤネットとスパークアレスターの汚れを取り除きます。



5. スパークアレスターを取り付けます。

要 点

スパークアレスターの突起部 ⑦ とマフラーパイプの穴 ⑧ の位置を合わせてください。

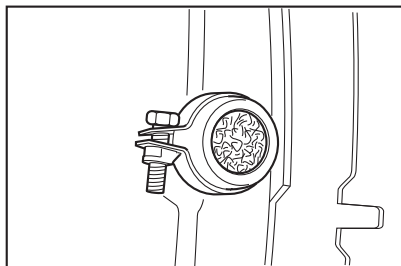


6. マフラーワイヤネットとマフラーキャップを取り付け、マフラーキャップボルトを規定のトルクで締め付けます。

マフラーキャップボルト

規定トルク：

3.5Nm (0.35kgf · m)



7. カバーを取り付けて、スクリュを締め付けます。

● 燃料タンクストレーナの清掃

要 点

ストレーナが短期間に汚れる場合は、燃料タンク内に汚れが溜まっていることがあります。

1. エンジンスイッチを STOP（停止）の位置にしてエンジンを停止します。
2. 燃料タンクキャップ ① およびストレーナ ② を取り外します。
3. ガソリンを使ってストレーナを洗浄します。

警告

タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。

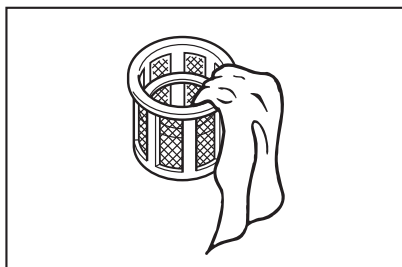
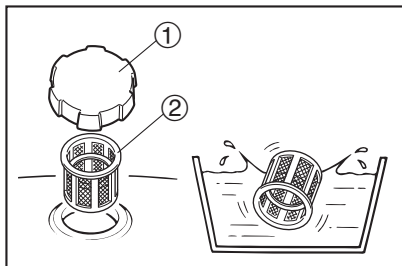
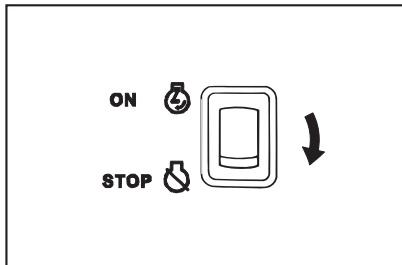
要 点

ストレーナが破損している場合は新品と交換してください。

4. ストレーナをふいて燃料タンクに挿入します。
5. 燃料タンクキャップを取り付けます。

警告

燃料タンクキャップはしっかりと締め付けてください。



故障診断

故障は行き届いた点検整備により未然に防ぐことができます。故障の多くは、取り扱いの不慣れや不十分な点検に起因しています。故障が生じたときは、ヤマハ発電機販売店またはサービス店にご相談ください。

下記には最も考えられる故障を選び、その想定される原因を列記しました。故障診断が不安なときは、できるだけそのままの状態ヤマハ発電機販売店またはサービス店に連絡し、専門技術者にご相談ください。

● エンジンが始動しない

1. 燃料系統（燃焼室に燃料が供給されていない）

燃料タンクが空になっている..... 燃料（自動車用レギュラーガソリン）を補給する。

燃料パイプが目詰まりしている..... 燃料パイプを清掃する。
もしくは、ヤマハ発電機販売店またはサービス店に相談する。

燃料コックに異物が混入している..... 燃料コックを清掃する。
もしくは、ヤマハ発電機販売店またはサービス店に相談する。

キャブレタが目詰まりしている..... キャブレタを清掃する。
もしくは、ヤマハ発電機販売店またはサービス店に相談する。

2. 電気系統（火花不足）

スパークプラグが汚れている..... スパークプラグを乾燥させて清掃する。

スパークプラグにカーボンが
付着している..... カーボンを除去する。

点火系統が不良..... ヤマハ発電機販売店またはサービス店に相談する。

3. 圧縮系統（圧縮不足、漏れ）..... ヤマハ発電機販売店またはサービス店に相談する。

4. 潤滑系統（オイル不足）

リコイルスタータハンドルを引くと

オイル警告ランプが点灯する..... エンジンオイルを規定量（注入口の口元）まで
補給する。

● 電気が出ない

交流過電流保護装置が作動している エンジンスイッチを STOP（停止）の位置に
して一旦エンジンを停止し、その後再始動す
る。

運搬

発電機を自動車・トラックなどの車両で運搬する場合は、次の項目を守ってください。

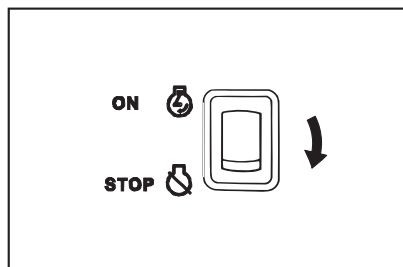
警告

- 振動、衝撃などで燃料タンクの燃料（自動車用レギュラーガソリン）がこぼれるおそれがありますので、燃料タンクに燃料を給油したまま運搬しないでください。
- 燃料が気化して引火するおそれがありますので、発電機を車内やトランクなどに積載したまま、長い時間直射日光の当たる場所に放置しないでください。
- 火災のおそれがありますので、予備の燃料は消防法に適合した鉄製の携帯タンクに保管してください。
- 火災のおそれあり、車両に積載したまま使用しないでください。

注意

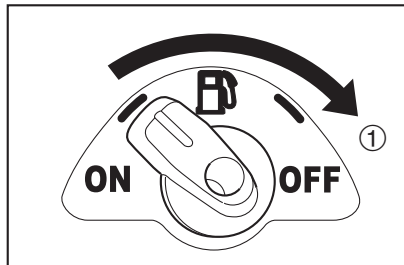
発電機の上に重いものを置かないでください。

1. エンジンスイッチを STOP（停止）の位置にします。



運搬（つづき）

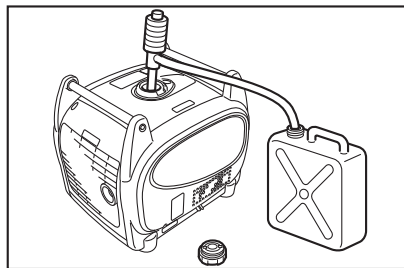
2. 燃料コックを OFF（閉）① にします。



3. 燃料タンクキャップおよびストレーナを取り外し、市販のポンプを使用して燃料（自動車用レギュラーガソリン）を抜きます。なお、電動式ポンプは使用しないでください。

警告

- 燃料タンクキャップは確実に締め付けてください。
- こぼれた燃料は直ちに布きれなどで完全にふき取ってください。



4. 燃料タンクキャップおよびストレーナを取り付けます。

5. 車両に積載し、発電機をロープなどで確実に固定します。

要点

発電機が移動、転倒、落下、破損などしないような位置に積載してください。

保管・格納

● 保管

使用後または定期運転後、次回の使用が3ヶ月以降になる場合は、1～12の作業を行って保管し、次に使用するときに備えてください。

▲ 注意

燃料（自動車用レギュラーガソリン）が自然劣化してエンジンの始動が困難になる場合がありますので、燃料は抜いてください。

要 点

排出する燃料を受け取る容器を用意してください。

1. エンジンスイッチをSTOP（停止）の位置にしてエンジンを停止します。

2. 燃料タンクキャップおよびストレーナを取り外し、市販のポンプを使用して燃料（自動車用レギュラーガソリン）を抜きます。なお、電動式ポンプは使用しないでください。

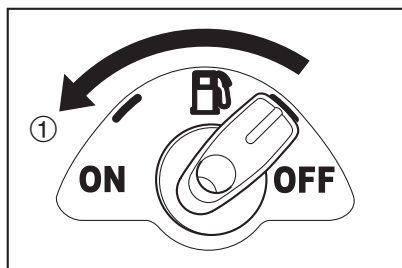
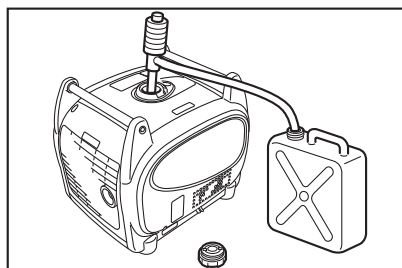
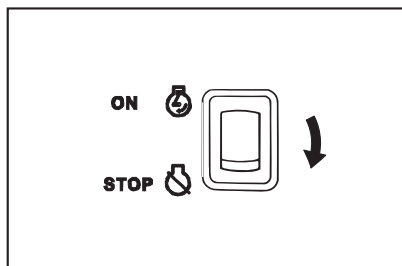
3. 燃料タンクキャップおよびストレーナを取り付けます。

▲ 警告

- 燃料タンクキャップは確実に締め付けてください。
- こぼれた燃料は直ちに布きれなどで完全にふき取ってください。

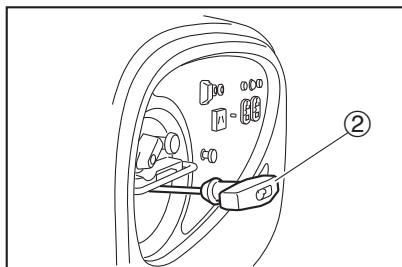
4. エンジンスイッチをON（運転）の位置にします。

5. 燃料コックをON（開）①にします。



保管・格納（つづき）

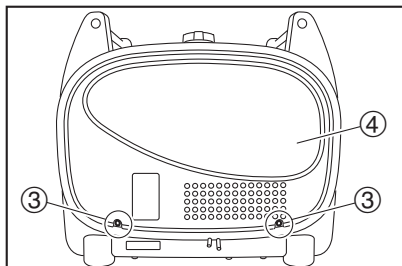
6. リコイルスタータハンドル②を引いてエンジンを始動します。約 20 分後にエンジンは「ガス欠状態」で停止します。



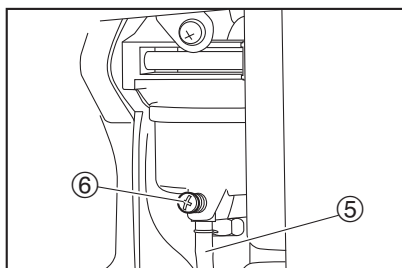
要 点

- 電気器具は接続しないでください。（無負荷運転）
- 燃料タンク内の燃料残量によって「ガス欠状態」になるまでの時間は変わります。

7. スクリュ③を取り外し、カバー④を取り外します。



8. キャブレタのドレンパイプ⑤を容器で受け、キャブレタのドレンスクリュ⑥を⊕ドライバでゆるめて燃料を抜きます。



警告

こぼれた燃料は直ちに布きれなどで完全にふき取ってください。

要 点

キャブレタ内のガソリンを抜かずに長期間放置すると、ガソリンが変質しエンジンがかからなくなる場合があります。

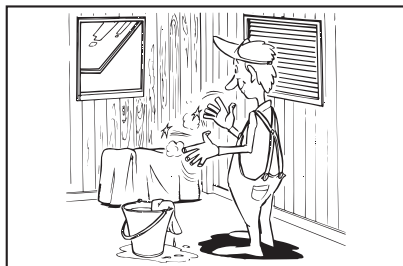
-
9. ドレンスクリュを締め付けます。
 10. エンジンスイッチを STOP（停止）の位置、燃料コックを OFF（閉）にします。
 11. カバーを取り付けて、スクリュを締め付けます。
 12. ゆるみがあれば、各ボルト・ナット・スクリュを増し締めします。



13. 室内で湿気が少なく換気の良い場所に保管します。

▲ 注意

火災のおそれがありますので、発電機にカバーを掛ける場合は、エンジン部、マフラー部が十分に冷えてから行ってください。



保管・格納（つづき）

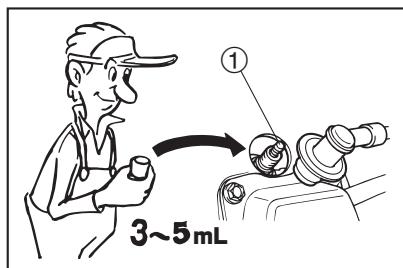
● 格納

長期間にわたって使用しない場合は、次のことを行って格納し、次に使用するときに備えてください。

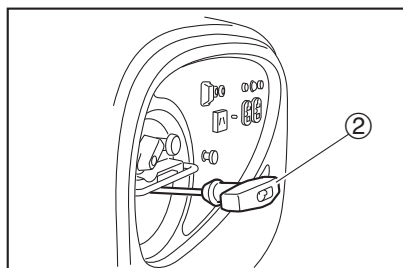
1. 「● 保管」の 1～12 の作業を行います。

2. スパークプラグ①を外し、プラグ孔よりエンジンオイルを3～5mL 給油します。

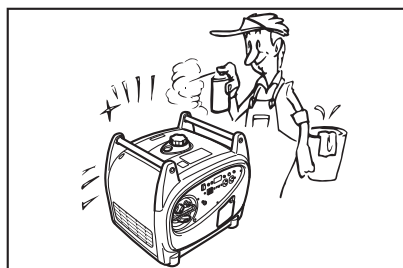
3. リコイルスタータハンドルを2～3回引いた後、スパークプラグを取り付けます。



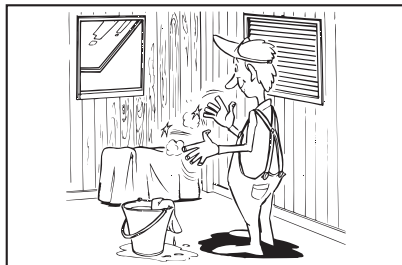
4. リコイルスタータハンドル②を引き、重くなった状態（圧縮状態）にします。



5. 各部をきれいに清掃して防錆処理をします。



-
6. 発電機にカバーを掛け、室内で湿気が少なく換気の良い場所に保管します。



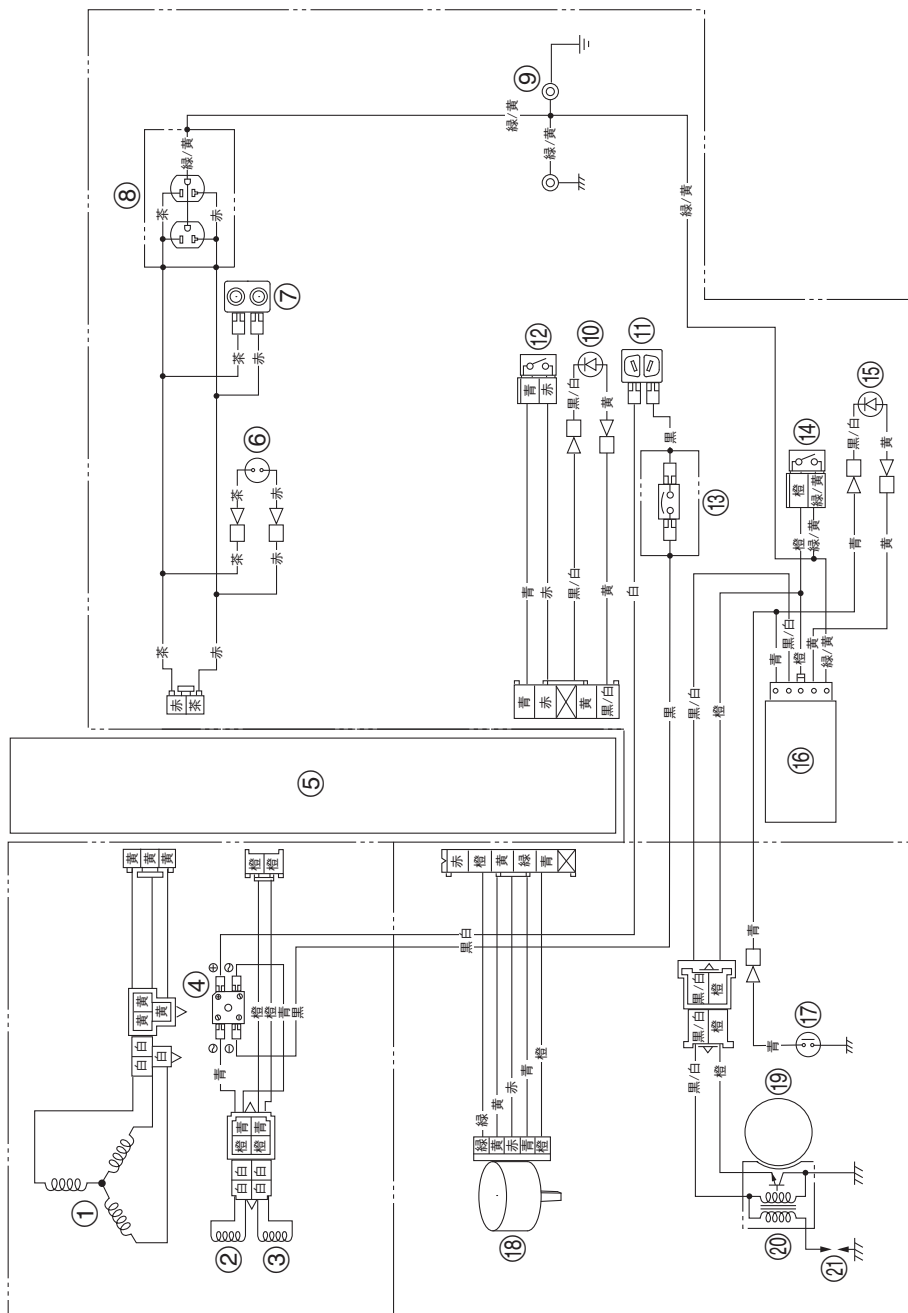
仕様諸元

| | | | |
|---------------------|-----------------------------|----------------------------------------------|-----------------------------|
| 名称 | | EF2000iS | |
| 形式 | | 多極回転界磁形 | |
| 電圧調整方式 | | インバータ式 | |
| 励磁方式 | | 自己励磁式 | |
| 力率 | | 1.0 | |
| 発電機 | 交流 | 定格周波数 | 50Hz/60Hz (切替式) |
| | | 定格出力 | 2.0kVA |
| | | 定格電圧 | 100V |
| | | 定格電流 | 20A |
| | | 並列接続時定格出力 | 3.8kVA |
| | 並列接続時定格電流 | 38A | |
| | 直流 | 定格電圧 | 12V |
| 定格電流 | | 8A | |
| 装備 | 駆動方式 | | エンジン直結 |
| | 交流コンセント | | 20A × 2 個 |
| | 交流過電流保護装置 | | 電子式 |
| | 直流コンセント | | 12A × 1 個 |
| 直流過電流保護装置 | | 直流プロテクタ | |
| エンジン | エンジン種類 | | 空冷 4 ストロークガソリンエンジン |
| | 調速機形式 | | 電子制御式 |
| | 冷却方式 | | 強制空冷式 |
| | 点火方式 | | CDI 点火 |
| | スパークプラグ | | NGK・BPR4ES |
| | プラグギャップ | | 0.7 ~ 0.8mm |
| | エアクリーナ方式 | | 半湿式 (ウレタンフォーム) |
| | 総排気量 | | 171mL (171cm ³) |
| | 使用燃料 | | 無鉛ガソリン (自動車用レギュラーガソリン) |
| 潤滑方式 | | 強制飛沫式 | |
| エンジンオイル | | API 分類 SE 級以上エンジンオイル (SAE 10W-30 または 10W-40) | |
| エンジンオイル規定量 | | 0.6L | |
| 始動方式 | | リコイル式 | |
| 燃料タンク容量 (赤レベル) | | 6.0L | |
| 定格連続運転時間 (赤レベル) | | 約 5 時間 | |
| 1/4 負荷連続運転時間 (赤レベル) | | 約 8.6 時間 | |
| 乾燥重量 | | 32kg | |
| 全長×全幅×全高 | | 527 × 419 × 461mm | |
| 騒音レベル *1 | dB/LWA 3/4 負荷 | 87.5 | |
| | dB(A)/7m 1/4 負荷～ 定格負荷 | 54.5 ~ 61 | |
| バッテリー | | 無 | |

● この仕様諸元は改良のため予告なしに変更することがあります。

*1 : 仕様諸元表に表示した騒音値の L_{WA} は、ISO3744 に準ずる試験環境での音響パワーレベル、dB(A)/7m が機側 7m、四方向の算術平均値です。異なる環境下での騒音はこの数値と変わる場合があります。

結線圖



-
- ① メインコイル
 - ② DC コイル
 - ③ サブコイル
 - ④ DC レクチファイヤ
 - ⑤ コントロールユニット
 - ⑥ 出カランプ (緑色)
 - ⑦ 並列端子 (交流用)
 - ⑧ 交流コンセント
 - ⑨ アース端子
 - ⑩ 過負荷警告ランプ (赤色)
 - ⑪ 直流コンセント
 - ⑫ 周波数切替スイッチ (50Hz・60Hz)
 - ⑬ 直流プロテクタ
 - ⑭ エンジンスイッチ
 - ⑮ オイル警告ランプ (赤色)
 - ⑯ スピードリミッタ
 - ⑰ オイル警告スイッチ
 - ⑱ ステッピングモーター
 - ⑲ TCI マグネット
 - ⑳ TCI ユニット
 - ㉑ スパークプラグ

索引

あ行

| | |
|----------------|-----------|
| アース端子 | 7, 11 |
| 安全にお使いいただくために | |
| お守りください | 3 |
| 運搬 | 48 |
| エアクリーナ | 7, 41 |
| エアクリーナエレメントの清掃 | 41 |
| エンジンオイルの給油 | 18 |
| エンジンオイルの交換 | 38 |
| エンジンオイルの点検 | 31 |
| エンジンが始動しない | 47 |
| エンジンスイッチ | 7, 9 |
| エンジンの始動 | 20 |
| エンジンの停止 | 22 |
| オイル警告装置 | 9 |
| オイル警告ランプ (赤色) | 7, 10 |
| オイルプラグ | 7, 18, 40 |
| オイルプラグカバー | 7, 18, 39 |
| お客様ご相談窓口のご案内 | 2 |
| おねがい | 表紙裏 |

か行

| | |
|---------------|-------|
| 格納 | 53 |
| 各部の取り扱い | 9 |
| 各部の名称 | 7 |
| 過負荷警告ランプ (赤色) | 7, 11 |
| 環境への配慮 | 4 |
| キャブレタ | 7, 51 |
| 警告 | 3 |
| 警告シンボルマーク | 表紙裏 |
| 警告ラベル | 5 |
| 携帯工具 | 16 |
| 交流コンセント | 7, 15 |
| 結線図 | 57 |
| 交流電源の使用可能範囲 | 27 |
| 交流電源の取り出しかた | 23 |
| 故障診断 | 47 |

さ行

| | |
|---------------|-----------|
| 始業点検 | 29, 30 |
| 周波数切替スイッチ | 7, 15, 23 |
| 出力ランプ (緑色) | 7, 11 |
| 重要ラベル | 5 |
| 仕様諸元 | 55 |
| スパークプラグ | 7 |
| スパークプラグキャップ | 7 |
| スパークプラグの点検と清掃 | 36 |
| スパークプラグレンチ | 7 |
| その他の点検 | 32 |
| その他ラベル | 6 |

た行

| | |
|---------------------------------|-------|
| 正しい運転操作 | 20 |
| チャージコードアッセンブリ | 24 |
| 注意 | 4 |
| 注意シンボルマーク | 表紙裏 |
| 注意ラベル | 6 |
| チョークノブ | 7, 12 |
| 直流コンセント | 7, 15 |
| 直流電源の取り出しかた (12V バッテリー充電専用) | 24 |
| 直流電源 (12V バッテリー充電専用) の使用可能範囲 | 28 |
| 直流プロテクタ | 7, 14 |
| 定期運転 | 34 |
| 定期運転・定期交換 | 34 |
| 定期交換 | 34 |
| 定期点検 | 29 |
| 定期点検・整備ご相談窓口のご案内 | 35 |
| 定期点検表 | 33 |
| 点検 | 29 |
| 点検・調整 | 36 |
| 電気が出ない | 47 |

な行

| | |
|----------------------------|-------|
| 燃料コック | 7, 12 |
| 燃料残量計 | 7 |
| 燃料タンクキャップ | 7, 10 |
| 燃料タンクストレーナの清掃 | 46 |
| 燃料 (自動車用レギュラー ガソリン) の給油 | 17 |
| 燃料 (自動車用レギュラー ガソリン) の点検 | 30 |

は行

| | |
|--------------|-------|
| はじめてお使いになる前に | 17 |
| ハンドル | 7 |
| 並列端子 (交流用) | 7, 13 |
| 保管 | 50 |
| 保管・格納 | 50 |
| 本体識別番号 | 1 |
| 本体識別番号ラベル | 1 |

ま行

| | |
|---------------|----|
| マフラー | 7 |
| マフラーワイヤネットの清掃 | 44 |

や行

| | |
|-----------|-----|
| 要点シンボルマーク | 表紙裏 |
|-----------|-----|

ら行

| | |
|--------------|-------|
| リコイルスタータハンドル | 7, 14 |
|--------------|-------|



ヤマハモーターパワープロダクツ株式会社
〒436-0084 静岡県掛川市逆川200-1

再生紙を使用しています。

2014.07 × 1 